

令和3年12月11日

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	守山市立吉身保育園
代表者氏名（管理者）	園長 大西 美幸
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
定員（利用人数）	本園 150 名（152名） 分園 25名（24名） いずれも2021.9.18日現在
施設・事業所所在地	本園 守山市吉身二丁目6番61号 分園 守山市吉身三丁目2番26号
T E L	本園 077-582-4711 分園 077-583-3667
F A X	本園 077-582-4477 分園 077-583-3667
電子メール	<a href="mailto:yoshimi_enchou@rakuwa.or.jp">yoshimi_enchou@rakuwa.or.jp</a>
ホームページアドレス	<a href="http://www.rakuwa.or.jp">http://www.rakuwa.or.jp</a>

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
評価実施期間	令和3年11月24日と11月26日

## ○ 総合評価

吉身保育園は昭和46年に公立保育園として開園し、40年余の歴史を刻んできた。平成22年4月に守山市の指定管理者制度に基づき、社会福祉法人洛和福祉会が受託することとなった。その後平成26年7月に市の乳児保育枠増員政策により、吉身小学校内に定員25名の乳児保育施設を開設し、分園としての運営を受託し今日に至っている。幼児部門のみならず医療分野、高齢者分野でも活躍している運営母体法人の指導支援も受け、乳児保育では育児担当制、幼児保育では「たてわり保育」をベースにして、伝統を生かした保育に磨きをかけている。

3年目を迎えた園長は全職員と共に伝統を大切に、緊急事態宣言下で保育園でのクラスター発生が県内でも見られる中、防衛に努め、保護者の理解と愛園活動を含めた協力を得ながら

「あたたかい思いやりの心をもった子ども」

「自分の考えをもって行動できる子ども」

「生き生きとした強く明るい子ども」

「人権を大切に作る心を育てあう」

という子どもの姿を目標に、サービスの質向上を目指して、毎年第三者評価調査を受審している保育園である。

## ○ 特に評価の高い点

### 1、伝統的な保育方針の継続・発展

- ・乳児保育には育児担当制、幼児保育にはたてわり保育形態の保育実践を通して、保育士間の連携と認識共有により、園児同志のつながりや育ちあいが豊かに育まれる保育を継承し発展させている。
- ・乳児には育児担当制を取り入れ、子どもの個性により、個々の欲求やサインの出し方が違うことを大切に受けとめ、生活習慣の場面ではいつも同じ保育士が担当することで、子どもの思いをくみ取り、日常の生活習慣の動作を丁寧に援助することで、愛着関係が深く結ばれることを通して、情緒の安定が得られることを大切にしたい保育に取り組んでいる。
- ・幼児は、たてわり保育の中で教えたり、教えられたり、お互いを思いやる心の大切さに気付いたりできる環境が用意され、日常の中で自然に育まれている姿が見られる。  
お店屋さんごっこ遊びを見せてもらったが、異年齢の子どもがペアーを組んでそれぞれの行動を互いに補いながら、「此処はこのお金で買うんだよ」と教えてもらった年下の子どもは上手く買い物が出来た喜びを表すと共に、来年になったら自分も教えてあげられるようになるとの期待感をもって楽しそうにお店をめぐる様子は、常々かかわりを持つたてわり保育によって培われた自然な行動でありほほえましい情景を見ることが出来た。

## 2、食育について

- ・食育計画が年齢別に具体的に作成され全職員が前向きに日々取り組んでいる。  
今年度は、衛生的配慮から給食を盛り切りとし、余分な配分をなくしている。そのためにも保育士は、給食室との連携を密にして、園児一人ひとりの食べられる量・食べてほしい量を把握している。乳児クラスでは、保育士が一人一人に温かい眼差しで、好き嫌いなく完食できるように食事の援助をしながら日常の変化にも気を付けている。
- ・野菜の栽培計画も作成しており、それに基づき、栽培から収穫までを体験しながら関わり、その育てた季節の野菜を給食にも活用し食への関心へとつなげている。
- ・離乳食・アレルギー食の個々への対応、普通食等給食を安全に時間内に提供できるように、調理スタッフ4人で事前にしっかり話し合い、仕事分担を把握し手順よく作業している。
- ・今年度のテーマは、毎月季節の行事食を取り入れている。伝統料理や昔からの伝承などを毎月『もりもり便り』に記載し保護者への啓発にも努めている。

## 3、地域密着の支援関係

- ・地域高齢者ボランティア「ハッピーさん」（コロナ禍のため今年4月以降は中止をお願いしている）やお話し会（計画通り実施している）が、全体的な計画に組み込まれているほど協力を得ており、子ども達も楽しみにしている。
- ・地域の子育て支援ニーズに応えるため、さくらんぼ教室や見学の受入れなど、未就園児親子の遊び場の提供や子育ての悩みの相談に応じている。

## 4、分園について

- ・0,1,2歳児合計23名の少人数でアットホームな雰囲気分園である。育児担当制という伝統を受け継ぎつつ、常勤6名、フリー3名と主任がリードして全職員が総ての子どものごことを把握出来ており、一緒に行動することで連携がとりやすくソフト面では恵まれた中で育っている。
- ・小学校校舎という条件下で固定遊具等1~2歳児に合わないが、一方では恵まれた自然を利用し、でこぼこの小山を登ったり、ダンボールなどで滑り降りる遊び等、広い運動場の隅々まで足を運ぶことから足がしっかりし、たくましく育っている。  
校庭の自然環境が良く、四季折々の移り変わりを子ども達は見て肌で感じ取っている。  
特に秋のもみじのグラデーションや木の実拾いをしたり、自ら探索活動も出来る様になっている。
- ・小学校には吉身保育園の卒園児も沢山在籍し、出会うと頭をなでて可愛がってくれたり、鬼ごっこ遊びをしてくれたり、虫を見せてくれたりと小学生と乳児が自然に出会いお互いを思いやりながら、遊び方や楽しみ方を教えてもらったりという心の触れ合いをも出来る環境下にあることは素晴らしい。
- ・2歳児においてはいずれ本園の3歳児に移行していくことを前提に、本園2・3歳児との交流、庭遊びの継続など進級体制を図り、本・分園連携の充実を図っている。

○ 改善を求められる点

1、昨今保育施設での子どもの事故が増えている状況の中で、リスクマネジメントを担当する責任者が配置されていないため、至急責任者を決めリスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備して、安全管理に努めて頂きたい。

2. 幼児の保育手順書について

乳児の保育の手順書についてはすでに作成しているが、幼児組の子どもたちの発達状況に応じた保育の標準的な実施方法の文書化を期待する。職員の違い等による保育の水準や内容の差異を極力なくすため、職員がいつでも閲覧でき保育の実践に生かせるよう作成に取り組んで頂きたい。

3、地域高齢者のハッピーさん来園がコロナ禍の為中止になり、触れ合う機会がなかった事は非常に残念であった。又高齢化が進み、収束しても来て下さる方の減少も予想される中、地域に何らかの方法で園の事を伝え、協力を呼びかける工夫を考えて欲しい。

4、現在特に心配される家庭はないが、コロナ禍により保護者の孤立による虐待が心配される。虐待時対応マニュアルを基に全職員の研修機会を持ち早期発見、早期対応ができるような体制を整えて欲しい。

5、分園について

小学校校舎という条件下でトイレは手前 2 箇所を園児が使っている。分園廊下の温度管理はコロナ対応の結果、防火壁などで締め切ることをせず風通しを良くしている現状では難しいと思われ、ズボン・パンツの着脱で下半身裸になり待っている時間は手作りのパーテーションで補っているが、厳冬期だけでも反射暖房器具の使用等工夫や配慮が必要と思われる。

洗面所についても 1~2 歳児が使用するには高く、2 名分の踏み台を作り、側で保育士が一人ずつ見守る中で手洗いをしている。本園あるいは小規模保育の各園と比較しても厳しい条件下にあり、改善策が望まれる。

毎年の課題に上がっている 0,1 歳児の保育室に入る押しドアから引き戸ドアに変更する案件については未解決である。現在対策として、白いテープでドアの移動範囲を印して注意喚起をしているが、やはり内側にいる園児に当たる可能性もあり、事故が発生してから着手するのではなく事故発生を未然に防止するための方策を考えて頂きたい。

○ 第三者評価結果に対する事業者のコメント

本園では、幼児はたてわり保育、乳児は育児担当保育を行う中で、子どもと保育士との愛着関係の中で育まれる安心感や信頼感による心の育ちや豊かさを大切にしながら保育を行っています。今回、評価結果で高い評価をしていただいたことは、職員の励みにもなります。今後も引き続き子どもが落ち着いて過ごせるよう子どもたちの思いを受け止めたり、身の回りのことを丁寧に伝えたり支援したりしながら、より愛着関係が深く結ばれ情緒の安定が保たれるよう保育していき職員と共に努力していきます。

改善点としましては、昨今の保育施設での子どもの事故の増加の状況の中で、本園でもリスクマネジメントをしっかりと行い、委員会を設置したり責任者を配置したりして安全管理に努めていきたいと思っています。

また、コロナ禍の中地域とのかかわりが少なくなってきましたが、子どもたちにとって地域の方や高齢者とのふれあいの機会は大変なことでもあるので、今後は形を変えながらその機会を作っていきたいと思います。

今後も保育の見直しや行事の仕方を工夫しながら保育にあたっていきたいと思っています。今後も保護者や地域の皆様のご支援やご協力を頂きながら、安心安全な園づくりに努めていきたいと思っています。